



平成30年1月10日
Vol. 159

発行所 加来不動産株式会社
発行所 加来 寛 ・ スタッフ一同
小倉南区守恒本町一十二二十三一〇一
〇九三九六二一五八一
<http://www.kaku-f.co.jp/>

相続放棄のついで

今年もお願ひいたします♪



新しい年となりました。またこの一年も心機一転して、実りある年にしたいと思ひます。皆さまにおかれましても、さまざまなことがあると思ひますが、一年の終わりには「味わい深い一年だった」と言えることを祈念いたします。今年もよろしくお願ひいたします！

加来

Q、「相続放棄をしたいのですが、どういう手続きが必要でしょうか？」

田舎の実家を相続したのですが、兄弟三人とも県外に住んでいるので売却を検討しました。しかし田舎すぎて、金額がつけられないと不動産会社に言われました。今後、維持管理をすることを考えると、相続放棄をしたほうがよいのではないかと兄弟間で決まりました。実際にはどのようにすればよいのでしょうか？

A、相続放棄は、相続発生を知った日の翌日から三ヶ月以内に家庭裁判所をうけて行います。ですが、それ以上に二点ほど留意点があります。

■まずはじめに
ご相談の「相続放棄」についてですが、実際の手続きやなごれに関しては、インターネットや、亡くなったかたの最後の住所を管轄している家庭裁判所で確認できますので、今回はそれ以外の、意外と知られていない落とし穴について、次号にわたって触れたいと思ひます。

■相続放棄の落とし穴？

ここ最近、相続が発生したあと、負債があるわけではない場合でも、「面倒くさい」「維持管理ができないので」という理由から、「相続放棄したい」というご相談を受けることがおおくなってきました。



ご相談をうけるなかで、皆さま意外と知らない落とし穴があります。その一つが、**相続放棄をすると、相続に関する一切の権利義務は、放棄した方のお子さまや、叔父・叔母、祖父母など、他の相続人へまわっていくことです。**

ですので、もし**相続放棄を考慮するのであれば、その次に関係する相続人にも、事前に何かしらの相談が必要だ**ということですよ。

このお話で、場合によっては疎遠のかたとの人間関係や、また関係する人がかなりの人数になってしまふ、ということまで話ごとん挫してしまふことがあります。

また、相続放棄する場合、前提として「**相続があったことを知った日の翌日（おおくは、被相続人が亡くなったことを知った日）から三ヶ月以内**」に手続きしなければいけませんので、注意が必要です。



■放棄しても管理責任は問われてしまふ？

実は先に申し上げた「**落とし穴**」とは、「**管理責任**」についてです。このことは、士業のかたでもご存じないこともある、とても大切なお話です。ですが、紙面の都合上、詳細は次号お伝えさせていただきます。

■まとめ

相続放棄を検討する場合は、時間が重要となります。ですので、できれば相続前に皆さままで話し合う機会があれば、スムーズに話すすみやすいと思ひます。

《編集 加来》

突撃！となりの賃貸管理業務

今回は、「まち」の集約、コンパクトシティについてです。

今年の6月号・7月号のこの紙面でもご紹介した、居住地や都市機能を集約させるコンパクトシティ計画。

人口の減少や高齢化は、行政サービスの維持やインフラの整備にも影響をおよぼすという見解から、全国の市区の自治体が計画づくりに動きだしており、日経新聞の調査では**北九州市も含め、計画を策定ずみの自治体が15%、準備中や検討中も含むと全体の54%にも上ります。**

「まち」集約市区の5割
交通再編し居住誘導
計画・検討含め

検討している市区の具体策は、「公共設備の集約」や「交通網の整備」など住環境とは切りはなせないものが半数をこえています。

05年からコンパクトシティ作りにのりだしている富山市では、市街の人口が15年まで8年連続で増え、地価も回復傾向にあるとのこと。

市街地と郊外地で、ますます不動産の二極化は避けられない時代があとずれるのかもしれない。

《資産管理部 西村》

ひとこと不動産業界

“登記義務化で賛否”

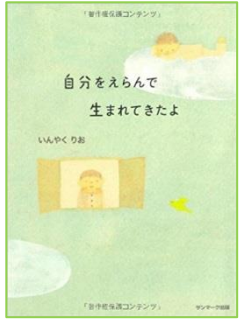
国交省も重く見ている“所有者不明土地”。この問題について、早急に義務化とする意見と、義務化による効果は期待できず、あくまで促進策に集中すべき、という意見にわかれ、結果ははずいまい。この問題についてはまだまだ時間がかかりそうです。

渡邊の

先月のグッときた本の紹介



『自分をえらんで
生まれてきたよ』



著者: いんやくりお
出版: サンマーク出版

「自分をえらんで生まれてきたよ」。この言葉に惹かれて本を手に取りました。この本には、心臓の病気と喘息を持って生まれてきた男の子が、片言を話せるようになった頃から9歳までのおしゃべりが書かれています。

【自分はずっとずっと幸せになるために病気をもって生まれてきたよ。お父さんとお母さんをえらんでお腹の中に入ったよ。】

私が私であることや、私が生きていること、どのように生きていけばいいのかと、気付かされることがたくさんあり、そして沢山の言葉に心が温かく、そしてしっかりしないと！という気持ちにさせられました。

私は、感謝の気持ちを持って「人を幸せにする」思いやりの行動をして、この命を生きていこうと思います！

経理事務

加来ゆかりです。
私の今年の抱負は
【和敬清寂 (わけい
せいじゃく)】です



今井です。私の今
年の抱負は【一日
一日をていねいに
過ごす】です



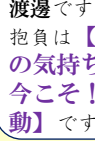
この一年も、マジメ
に楽しく仕事に励み
たいと思います。宜
しくお願いします！

管理・相続相談担当

柴田です。私の今
年の抱負は【責任
感をもとう】です



西村です。私の今
年の抱負は【まごころ】です



渡邊です。私の今年の
抱負は【ありがとう
の気持ちを込めて、
今こそ！ぐるりの行
動】です

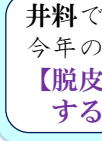


売買・相続相談担当

加来です。私の今
年の抱負は
【寛容さを育む】
です



石川です。私の今
年の抱負は【明る
く・朗らかに・機敏
に】です



井料です。私の今
年の抱負は
【脱皮し行動
する】です



平成三十年。みんなの抱負

加来寛の感動体験

毎年恒例となっている、町内の門松づくりには、はじめて参加しました。

つくる前までは、たいしたことないだろう、というのが本音でした。しかし、実際にやってみると、本当に大変で、わたしからすると親やそれ以上の先輩方がとても頼もしくみえました。

それは、年齢でははかれない、熟練の技や地域の人たちの阿吽の呼吸を感じたからです。



当日は、朝九時に町内の集会所にあつまり、地元の蒲生(がもう)神社裏山で、門松にちようどよい竹の伐採をおこないました。

ここからすでに、どの竹が門松にふさわしい竹か分かりませぬし、ノコギリをつかっている伐採も、大先輩方のほうがはるか

にはやく、しかも手際よく、わたしをふくむ数人の若手はたじたじでした(苦笑)。

その後は、集会所にもどりさっそく門松づくりにはいるわけですが、ここでも初参加の若手の我々は、指示されたこともままならない状態で、まわりの諸先輩方に圧倒されっぱなしでした。



二日にわたって門松づくりが行われたのですが、ごんねんながらわたしは初日のみの参加でした。

参加できなかったものの、次の日の午後、集会所内にある神社の鳥居前には、立派な門松がかざられてありました。

あまり役には立ちませんが、先輩方がいるこの町内が、誇らしく思えました。また来年もお手伝いしたいと思います。

《加来 寛》